

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1196500795		
法人名	株式会社ふれあい広場		
事業所名	ふれあい多居 浦和		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区元町1-32-17		
自己評価作成日	令和5年10月16日	評価結果市町村受理日	令和5年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナ禍で自由な外出や外食ができず地域との交流も感染予防策をとしての参加となりましたが、地域の神輿祭に参加し施設の使用や認知症対応型共同生活介護についての理解を深めて頂く事ができました。地域の防災会議への参加や公民館の文化祭での作品展示など、認知症の方の自信に繋がる活動ができたと思います。外部での活動量は減りましたが施設内では季節に合わせた作品作りや職員の協力で納涼祭や敬老会の開催等、ご入居者様を笑顔にするイベントが提供出来たと思われまます。また感染症や災害、虐待防止、事故防止に対する研修や勉強会を積極的に行い有事に備え職員一人一人の知識向上の為に活動を継続しております。日々の生活を全人的な視点で支えお互いに尊敬し合える関係作りにも努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- ・入居者の重度化が進む中、レベルの低下を防ぐ取り組みが行なわれ、みんなが参加できる活動を増やし、踊りや歌を取り入れ、気分転換も図られている。また、地域とのつきあいに積極的に取り組まれ、祭りに参加し、子供らと交流を図ったり、地域防災会議に出席し、お互いの情報交換と連携づくりに取り組まれている。
- ・広報にも力を入れ、家族を中心に写真がふんだんに入った「ふれあい便り」を送付され、入居者の普段の生活ぶりが紹介され、家族からも好評評価を得られている。
- ・運営推進会議については、参加型の開催に移行し、入居者の日常の活動報告が行われ、ヒアリングなどは事例に加えて対策や再発防止策を発表し、参加者にも理解をいただき、事業所運営にも活かされている。
- ・目標達成計画については、平成4年度は厚生労働省の通知を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、災害対策で全職員が、特に水害に対して対応できるよう取組まれ、垂直避難の訓練を実施されたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	地域密着型サービスの公開情報や事業所理念を玄関や事務所に掲示し意識の共有を図っている。常に事業所理念を意識した行動が共有できるように会議の際は復唱し職員、ご利用者双方とも「ゆとりある介護」の実践に努めている。	「入居者の時間の流れ」に合わせて無理なくゆとり接することを理念に謳い、一人ひとりに目を向けたアットホームな環境が作られている。また、職員も人任せにせず、お互いがカバーし合うことでゆとりを持つよう取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と互助・共助ができるよう運営推進会議での情報共有を図っている。コロナ5類と同時に交流の場を増やしている。地域防災会議への参加や地域行事への参加が再開できている。地域防災部との連携ができる様、情報共有をしている。	地域の神輿祭りへの協力、文化祭に見学に出かけるなど、地域とのつきあいの再開に取り組まれている。また、地域防災会議にも参加され、地域の情報をとり、認知症について地域の方にも理解していただくよう努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域公民館への作品展示を通して認知症への理解を深める活動を実施している。認知症理解の為に施設見学の間を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を通じてご家族様や地域包括、地域の方々や活動報告や研修、施設の行事を共有し話し合いサービス向上に活かしている。コロナ5類となり6月より参加型の開催が可能になり率直な意見交換ができた。	参加型の開催に移行し、日常の活動報告などが行われ、ヒアリングなどは事例に加えて対策や再発防止策を発表し、参加者にも理解いただいている。情報交換も積極的に行われ、特にイベント開催や防災について運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催報告や活動の様子を報告し、さいたま市の担当者との連携を取る事ができている。コロナワクチンの接種状況等も随時報告している。地域包括支援センターへは日常的に施設状況を報告している。	市担当者とは連絡を密に取り、運営推進会議の議事録の持参やコロナワクチンの進捗状況を伝えるなど連携が図られている。また、地域包括支援センターからは地域のイベント情報などをいただき、事業所運営にも取り入れられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を設置し年4回の研修や勉強会の開催、毎月のアンケートによる意識調査を実施し具体的な事例を上げ不適切ケア撲滅に取り組んでいる。	「不適切ケアチェックリスト」からその月の具体的な目標を決め、実施後の反省と内容のフィードバックも行われている。定期的な研修、勉強会も実施され、特にスピーチロックなどは事例を交えながら、職員全体で気を付けるよう取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置し年4回の研修や勉強会の開催、毎月のアンケートによる意識調査を実施し具体的な事例を上げ不適切ケア撲滅に取り組んでいる。毎月の会議でケアの振り返りを実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で研修する機会を設け職員が講師となり勉強会を実施している。ご家族様の高齢化が顕著な事から後見制度に対する理解を深める機会を増やしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者や本社職員が懇切丁寧な説明、同意、契約をしている。ご家族様からの疑問点やご意向などは速やかに解決できるような体制に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様のご意見やご要望はお待たせすることなく対応する事を心掛けている。ご意見やご要望は運営推進会議で共有させて頂いている。	入居者からは満足度のアンケートや普段の生活の中からやりたいことや要望をお聴きするよう取り組まれている。家族とは、入居者のちょっとした変化についても連絡を取り、コミュニケーションを図りながら意見や考えを聴くよう努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議毎に事前アンケートを行い職員の意見を話し合い反映できる機会を設けている。個々の意見や要望が埋もれない様配慮されている。	職員からは「サービスの向上」をメインに業務やケアについての意見、提案が出され、フロア会議に議題として取り上げ、全員で考え決定されている。職員からは日常の会話の中でお互いの意見などが言いやすいとの評価も得られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の活動や努力には労いの言葉や「いいねカード」の受け渡しを行い意欲向上を図っている。積極的な提案は共有しアサーティブに対応している。様々な福利厚生制度や年に一度昇給がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部研修等、個々の資質向上に取り組んでいる。職員の経験レベルに合わせた研修にも取り組んでいる。先輩職員が業務中にOJTを行いスキルアップに取り組んでいる。ハラスメント防止活動を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がWEB会議や研修を通して同業者との意見交換を実施している。定期的な居宅介護支援事業所や老人保健施設、有料老人ホーム等を訪問しサービス向上への取り組みを説明、ネットワーク作りを実施している。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントを共有し個々に合わせた声掛けや不安を軽減できる支援を実施している。ご入居者様、ご家族様のご意見やご要望を共有し信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のご意向、ご要望に寄り添い、ご家族様の不安や困りごとを傾聴する事ができている。安心して預けて頂ける信頼を得られる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状態に合わせたサービスの提供や状態悪化時の支援についてもご相談に応じている。現時点の状況を見極めQOLの向上を目指した支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立した生活を目指しご入居者様の能力を活かしたケアに努めている。自立を促し共に支え合う関係作りに努めている。人生の先輩として職員を家族のように心配して下さっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様ができる所はお願いし現時点でのご入居者様のご様子を常に共有できるように配慮している。体調に関する事等は速やかに報告しご意向を確認し思いを共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ5類で面会可能となり短時間の面会や外出で元の状態に戻りつつある。住み慣れた地域内を散歩したり少しずつ活動できるようになってきた。	馴染みの場所に出かけることは制限され、施設内で昔馴染みの遊びや編み物や絵手紙などを楽しまれている。また、懐かしい歌や時代劇、「ごぼう体操」、「白飯体操」なども盛り込まれ、昔のことを極力忘れないよう支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士の交流を職員が橋渡しし井戸端会議ができる様な関係作りを支援している。ご入居者様同士でお互いを心配する声掛けが見受けられている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの締結が終了しご退居された方、ご逝去された方それぞれに葉書や来訪(お線香を上げに訪問)する機会を設けるように努めている。特にご逝去されたケースは感謝のお言葉を頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に傾聴を行い気持ちを汲み取る姿勢に努めている。ケアプランの更新時はご本人様の満足度を伺い暮らし方の希望や意向確認を実施している。声なき声を普段の生活から気づいて差し上げられるよう努めている。	入居者個々の生い立ちや両親や兄弟の名前などを糸口に話しかけたり、出来ることや得意なこと、生活ぶりを観察することから思いや意向の把握に努められている。様々な情報は職員間で共有され、コミュニケーションのとっかかりとされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のデータをファイリングし職員が生活歴や趣味、嗜好を把握できる環境を整えている。身体的、精神的にフォローできるようにこれまでのサービスについても把握できる環境作りを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々が自由にその人らしく時間を使う事ができるように配慮し有する能力に応じた支援を実施している。月に1度のフロア会議を通して良好な心身状態が保てる様、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者が主となり課題を抽出し満足度、最新のアセスメントを作成している。ご入居者様、ご家族様、職員で担当者会議を行っている。担当者会議が開催できない時は電話や手紙にて意向を把握し介護計画に反映させている。	これまでの生活のバックグラウンドや発症経過シート、満足度調査アンケートなどに加え、家族の意向や入居者の言葉などを盛り込んだケアプランが作成されている。ニーズからサービス内容までの一貫性も伺われ、家族からの同意も得られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や共有したい事柄は記録媒体を利用し共有している。ご家族様や生活上の伝言、医療機関からの重要事項も随時更新し見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様も高齢化が進み行政手続きや外部受診等の対応ができなくなる事例が増えている事から、より細やかな支援の必要性を感じる。できる限り多様な支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の防災会議への参加や公民館のイベントに参加し互助・共助に対する認識の共有をしている。活動報告や支援内容を発信しご入居者様が地域で活躍できる場を増やせる様、努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問往診で疾病の管理、健康状態の維持の指導を受けている。往診医と事業所の連携が良好に保てる様、情報の提供、共有を行っている。往診医、薬局、事業所で連携できている。	医療機関の選択については、家族の希望を聴き、入居者の健康状態も見ながら検討されている。往診医とかかりつけ医との間で診療情報提供書を取り交わし、さらに薬局や訪問看護との連携も図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護を通して健康観察を行い日常の様子や体調変化への対応方法などのアドバイスを受けている。訪問往診と連携する事で適切な受診に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は往診医と入院先との橋渡しを行いご入居者様、ご家族様が安心して入院できる様、情報発信や情報共有を行っている。また早期退院に向け入院中の状態把握に努めご家族様との連絡を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居様が終末期の際は早い段階でご本人様のご意向、ご家族様のご意向に対応できる様、話し合いを行い日常生活上の希望、医療的ケアの希望を共有している。医療的ケアに関しては往診医とご家族様との話し合いで書面に残している。	重度化や終末期に際しては、医師を交えた家族との話し合いや職員への看取りについての研修などの対応がとられている。家族の意向を汲み取り、看取り用のケアプランも作成し、職員には「しっかり見て、しっかり送る」よう指導がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は緊急時のフロチャートに従い行動できる様にフロア内に掲示している。定期的に研修や勉強会、OJT等で緊急時の対応について継続学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災による避難訓練の実施、年に1回の水害による避難訓練を実施している。日中帯、夜間帯それぞれの時間を想定し訓練に役立てている。地域の防災部との連携に努めている。	事業所を取り巻く環境に合わせた対策がなされ、火災や水害それぞれの避難方法を明確にし、それを基に日中、夜間を想定した訓練も実施されている。また、地域防災会議に参加され、地域情報の共有と近隣の学校との協力体制も構築されている。	自治会メンバーの訓練参加が予定されていることから、これを機会に、具体的な連携や協力体制を作ったり、連絡網の作成などに取り組まれることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケアチェックシートの活用と振り返り、勉強会を通じてご入居者様の尊厳に配慮したケアの実践に向けた意見交換を行っている。職員一人一人の意識向上への働きかけに努めている。	「トイレ」という言葉は使わないこと、大きな声で排泄のことを話すことのないよう注意を払うなど、プライバシーや羞恥心への配慮がなされている。不適切ケアチェックシートから何項目かをピックアップし、その月に目標として取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に発言し自由に行動できる環境作りに配慮している。自分で選び行動できる様な声掛けや活動への支援を実施している。発信できないご利用者様には思いを汲み取る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	TVを見たい方、寝たい方、塗り絵が好きな方それぞれの希望を優先し支援している。個人のペースや時間を大切に扱う様に心掛けている。散歩の希望等にも対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服を選んで頂きお好みの装いを楽しんで頂いている。女性には口紅やマニキュア等も楽しんで頂いている。特別な日には着物やドレス、正装で写真を撮りご家族様へお渡ししている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意料理等の話をしながら調理補助をお願いしている。個々の嚥下状態に合わせた形状の提供をしている。食器洗いや食器拭きをお願いしている。おやつ作りへの参加を促している。	メニューも豊富で目先を変えたり、食事形態もそれぞれに合わせた食事が提供されている。朝食にはパン、そして麺類なども出され、誕生日には寿司やケーキがテイクアウトされ、また、日頃のおやつ作りには全員が参加して楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士指導によるメニューの提供で食事量、栄養バランスが確保できる様に努めている。介助が必要なご入居者様には食事介助にて対応している。体重の増加や肥満に対する評価(口腔栄養スクリーニング)を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に2回程度の訪問歯科にて口腔ケア指導を受け口腔内の清潔保持に努めている。個々に合わせた口腔ケアの支援を行っている。口腔衛生管理体制の助言を受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常にモニタリングし排泄状況の把握に努めている。尊厳に配慮した支援を意識している。排泄パターンを把握する事で失敗を減らし自立に向けたアプローチを心掛けている。	排泄チェック表を活用し、介助の方法なども考え、トイレでの排泄を基本に職員が二人で対応する機会も見られる。失敗された時は、さりげなく何事もなかったように対応し、入居者の羞恥心やプライドへの配慮もなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便カウントを共有し医療と連携しながら便秘の予防に努めている。水分摂取量の把握を行い日中帯の運動量を増やす働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯に制限があるがご入居者様の希望に合わせた入浴の声掛けに配慮している。面会等に合わせた曜日や時間帯への配慮も行っている。入浴剤の使用でリラックスして過ごす時間の提供を心掛けている。	入浴を楽しんでいただくことを基本に、職員と1対1で愚痴を聞いてあげたり、子供のころの思い出話などをしながら入浴いただいている。また、お湯を怖がる入居者には対応を工夫し、週2回ペースで拒否されることもなく支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	静養や入眠時間は個々の自由に任せ柔軟に対応している。眠くなったら居室へ誘導し安心してできる声掛けや環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の嚥下状態に合わせて提供方法を共有し服薬の支援を実施している。最新の処方内容が共有できる様にファイリングし確認できる状態にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加や創作活動、運動への参加を促し活動を通して喜びや自信に繋がる支援に努めている。生活歴や有する機能を活かした活動の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍での自由な外出は望めなかったが個々に対応した外出の支援へ配慮できたと思う。散歩等の気分転換は積極的に支援できたと思う。	駐車場に出て桜の花見を楽しまれたり、近隣の散歩や家族との外出などの支援が行われている。コロナ禍前の支援までは戻っていないが、職員からのアイデアもたくさん出ており、外食やパラ園などに出かけることを目標とされている。	



## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で人込みを避ける事が多く、買い物に行くことができなかった。ご希望に応じてご家族様に用意して頂いたりする事が多かった。金銭の所持はご家族様の許可を得て持たれている方も居る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されたりご家族様からの電話は自由にして頂いている。お手紙や葉書はお渡ししたり代読させて頂いている。ご希望に合わせて返信できる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は清潔で明るく季節を感じて頂ける工夫や穏やかな環境作りに努めている。適宜、空気の入替や消毒を実施している。体感に合わせた温度調整に配慮している。	共用空間には常に音楽が流れ、壁には季節感のある貼り絵などが飾られ、ミラーなどを使いながら死角がないように工夫が図られている。入居者がソファで寛ぐ姿も見られ、転倒防止と入居者の動線や体力を考慮した空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方との食席への配慮や馴染みの友達とソファで居眠りをしたり思い思いの場所で過ごせる工夫や支援を実施している。時には職員が寄り添いソファで過ごす等の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様の使いやすさとお好みに合わせご家族様と相談しながら配置の工夫等をしている。居室へ戻った際も清潔感を感じられるよう換気や清掃に努めている。	使い慣れた鏡台やタンス、家族の写真などが持ち込まれ、洋服も見えるように飾られ、生活感が感じられる居室が作られている。レイアウトなどは家族と相談し、入居者の居心地の良さを最優先に支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有のトイレ等はイラストを表示する事でわかりやすくし自ら行動できるように配慮している。個々の力を活かせる様な働きかけ(掃除等への参加)を行い同行し安全に配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名: ふれあい多居夢 浦和

## 目標達成計画

作成日: 令和5年12月13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	自治体の防災会議への参加は出来ており自治体からの施設内訓練への参加を予定しているが、現時点で具体的な連携の協力内容や連絡網の整備が出来ていない	より具体的な防災活動で連携できる強力体制、内容を取り決める。連絡網の整備を行い共助の体制を確立する	運営推進会議や地域防災会議での自治会防災担当者との綿密な打ち合わせを重ね具体案をまとめる。実際に協力が出来る支援を取り決め連絡網を作成する	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。